

宮城県林業普及活動情報

2026. 3 月号 No. 214

もくじ

- | 各地の林業普及活動情報 | P2~5 |
|--|------|
| ○丸森町産たけのこ出荷等に関する打ち合わせ
(大河原地方振興事務所) | |
| ○大衡小学校原木しいたけの植菌体験学習支援
(仙台地方振興事務所) | |
| ○栗駒高原森林組合地区座談会
(北部地方振興事務所栗原地域事務所) | |
| ○「伴走型市町村支援」の実施
(東部地方振興事務所) | |
| ○登米地域「森林業」ガイダンス (FOREST JOB ハイスクール) 開催支援
(東部地方振興事務所登米地域事務所) | |
| ○外国人材の雇用に関する菌床しいたけ生産者と企業とのマッチング
(気仙沼地方振興事務所) | |

丸森町産たけのこ出荷等に関する打ち合わせ

大河原地方振興事務所

【19日（木）】

次期シーズンの丸森町産たけのこの出荷に向けて、町内に設置されている4箇所の放射性物質測定所の担当者及び町担当者と検査のオペレーション等について打ち合わせを行いました。現場の課題についても話し合い、より円滑で効率的な検査体制づくりを関係者合意のもと、進めることができました。

引き続き町や生産者等と連携しながら、安全・安心で美味しいたけのこを皆さんにお届けできるように取り組んでいきます。



【説明会の様子】

大衡小学校原木しいたけの植菌体験学習支援

仙台地方振興事務所

【18日（水）】

大衡小学校の3年生児童を対象に、大衡村内の原木しいたけ生産者が講師となって、コナラ原木への植菌体験と仮伏せの作業体験学習が実施されました。

この体験学習は、「子供たちに地元産品への理解を深めてほしい」という思いから開催され、当日は58名の児童が参加しました。

参加した児童は、生産者の説明に熱心に耳を傾け、植菌作業に意欲的に取り組んでいました。

今回植菌した原木は、生産者の支援のもと、校内の森林内で管理され、体験した児童が6年生になる頃に収穫される予定です。

特用林産振興のため、引き続き生産者の方々の取組を支援してまいります。



【栽培についての説明の様子】



【植菌作業の様子】

栗駒高原森林組合地区座談会

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【17日（火）】

栗駒高原森林組合が主催する地区座談会が、栗駒と一迫の2会場で開催され、アドバイザーとして出席しました。

当日は、森林組合事務局から今年度事業報告及び次年度事業計画について説明があった後、当事務所から森林整備補助事業の概要及び助成内容について説明するとともに、集約化の必要性についても周知しました。

出席した組合員（森林所有者）からは、少花粉スギコンテナ苗の供給状況に関する質問や、組合経営の方向性及び市民に向けたPRの在り方について意見が出され、活発な議論が交わされました。

当森林組合では、このたびの座談会や3月24日に開催される総代会における意見を参考にしながら次年度事業を実施していきます。



【施業の目的別に助成内容を説明】

「伴走型市町村支援」の実施

東部地方振興事務所

【13日（金）】

女川町に対する今年度3回目（最終）の森林経営管理制度推進に向けた伴走支援打合せを行い、以前に意向調査を行った地域の再調査の状況等について、情報共有を図りました。

これまでの伴走支援の結果、集積計画を策定・公表し、保育間伐 3.95ha 発注するところまで終えることができました。

次年度も意向調査完了区域内の再調査を行い、間伐事業が円滑に進められるよう、引き続き町に対する支援を行っていきます。



【打合せの様子】

登米地域「森林業」ガイダンス (FOREST JOB ハイスクール) 開催支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【18日(水)】

登米市内森林組合の担い手確保を目指して管内林業関係者が連携し、登米総合産業高等学校の生徒に職業として森林・林業＝「森林業」を意識してもらうためのガイダンスを開催しました。

はじめに当所から森林の役割や登米市内の森林の現況等を説明した後、各森林組合で働く若手作業班から、普段の仕事や休日の過ごし方等、森林組合での働き方や休日の過ごし方等のイメージを伝えました。

また、森林業関連の進路として東北農林専門職大学の学生から大学生活について説明した後、チェーンソー伐倒のデモンストレーションと生徒の丸太造材体験を実施しました。生徒はいずれも熱心に聴講し、地域の森林・林業について理解を深めていました。



【ガイダンス会場】



【林業体験】

外国人材の雇用に関する菌床しいたけ生産者と企業とのマッチング

気仙沼地方振興事務所

【10日（火）】

南三陸町で菌床しいたけを栽培している株式会社椎彩社は特定技能実習生及び技能実習生等の外国人材を積極的に受け入れています。そこで、外国人材が働きやすい環境を作るために、栗原地域事務所の協力を受け、栗原市内で外国人材を取り入れている有限会社耕佑に赴き、視察及び情報交換会を実施しました。

有限会社耕佑はサラダ菜やサンチュ等の水耕栽培やマイタケの生産を行っており、特定技能実習生の他にも近隣の日本語学校から雇用も行うなど、多様性にあふれた職場となっています。

当日は役員間で意見交換を行い、株式会社椎彩社の外国人材雇用の現状について説明を受け、有限会社耕佑からはこれまでの実体験を踏まえた説得力のあるアドバイスを多数いただきました。

その後、有限会社耕佑で勤務している特定技能実習生の方と意見交換を行い、外国人材への理解が深まっていたと感じました。

当所としては、慢性的なマンパワー不足が解消する目処が立っていない現状から、今後も外国人材の雇用が増加傾向になることを見据え、他地域とのつながりを作り、情報収集に努めていきます。



【役員同士での意見交換】



【有限会社耕佑の特定技能実習生との意見交換】